第5回　赤川水系河川整備学識者懇談会
議事概要

平成25年11月13日(水)　13:30～15:30
庄内産業振興センター西館3Fマリカ市民ホール

(1) 赤川総合水系環境整備事業の事業再評価について

・評価方法はきわめて妥当(CVM、TCM)である。前回、今回ともB/Cがほぼ同じであることが評価の客観性を高めていると考えられる。
一方、ここで取り扱っている便益は、自分が実際に支払わされることを懸念するためWTP(支払い意思額)が小さめに回答されていると考えられることから、本来の便益よりも過小評価になっている可能性がある。
・便益は過小評価であると考えられるが評価結果は妥当である。また、アンケート調査結果は対象によりばらつくと考えられるため、赤川の利用者はどういう人々なのか等の分析が必要ではないか。便益は流域内でのみ評価するのではなく、もう少し広域的に評価してもよいのではないか。
・今回のアンケート調査結果は今後の赤川の整備に活かしていけば良い。
・便益は過小評価ではないか。評価出来ないものにこそ価値があると思われる。
・赤川下流に利用者が居ない（何も整備されていない）区間があったということが分かったことが大事である。
・河川整備計画において残置する樹木は将来的にも残しておけるのか、あるいは育ってしまえば伐採するのか。将来にわたり残すべき樹林はどんな状況となっているのか。礫河原を整備しても、大雨等により変わってしまうのではないか。
・大規模水害が頻発していることを踏まえ、防災を全面に出し、町連携を図り住民のコンセンサスを獲得しながら事業を進めていって欲しい。

(2) 赤川水系河川整備学識者懇談会（国管理区間）の点検について

・蛾眉橋下流における河道の能力はどの程度なのか。
・(一般的には)HMへの関心が小さいため、住民参加が重要と考えている。まるごとまちごとHMの認知率が低いところでも実施してもらいたい。
・水路やマンホールが見えなかったため避難中に死亡した事例もあり、HMを鵜呑みにするのは危険である。示されているものが絶対なのではなく、想定外の状況にも対応する必要があることを認識してもらうことが重要である。危機管理体制の強化にあたっては、過去の歴史含まれる重要な教訓などを参考にしていくことも大事である。
・月山ダムにおいては、土石流により流域の土砂が大量に貯水池に流入することで富栄養化する可能性があり、上水道源としての機能劣化が懸念される。

(3) 山形県における平成25年7月洪水の概要について

・赤川では土砂流出による河床上昇が認められる。関連市町では避難が実施されているが、これは自主避難であったのか、避難勧告が出されたのか。
・吉野川中流から下の方は普段は特段問題にならない河川であるが、一度洪水が発生すれば出水が早く情報伝達が間に合わない。このような問題を有する中小河川をどのように整備していけば良いのか考えていく必要がある。

―以上―